

JISK

(司法手続き仲介者
スターターキット)

モジュール5

当事者の体験談

www.justiceintermediary.org





はじめに

次のページに、JIによる援助を受けた人の実際の例を匿名で示します。匿名性を確保するために、名前と一部の詳細が変更されています。

これらの短い当事者の体験談は単なる例であり、個人はみな独特なものであるため、すべての起こりうる状況を網羅しているわけではありません。どんなに困難に見えても、これらの個人はすべて、聴聞を受け、司法制度に効果的に参加する権利を有しています。ここで取り上げる話は、各地域の国が、JIが援助することのできる障害者の範囲を認識するのに役立つことを目指しています。

ここに登場する当事者に対する配慮は、モジュール7「必要な配慮」に掲載していません。

「締約国は、障害者が全ての法的手続（捜査段階その他予備的な段階を含む。）において直接及び間接の参加者（証人を含む。）として効果的な役割を果たすことを容易にするため、手続上の配慮及び年齢に適した配慮が提供されること等により、障害者が他の者との平等を基礎として司法手続を利用する効果的な機会を有することを確保する。」

「障害者の権利に関する条約」第13条





エイブの話



エイブは、8歳のときに母親が亡くなった後、里親に育てられました。彼は学校でうまくやれず、10代で注意欠陥多動性障害と知的障害と診断されました。

青年期に入ってエイブは、以前、里親に性的虐待を受けたことを警察に打ち明けしました。彼のカレッジの特別支援学級の先生は以下のように報告しました：エイブは機能的に読み書きができず、教室で30分以上じっと座っていることができません。彼は何かを理解できないときに攻撃的になることがあり、時間と空間の把握能力が限られています。

エイブは自立して活動することが困難であり、金銭管理や家事の面で援助を必要としています。心理学者は彼を「すぐ他人に誘導されてしまう」と評価しました。

ベンの話



ベンは長年にわたって統合失調症の診断を受けてきました。物理学専攻で大学を卒業しています。一人暮らしをしていて、人間関係を築くのが苦手です。何年も働いていません。

銀行員への嫌がらせで告発されています。薬物乱用の経歴があります。彼は検査で、新しい情報を保持できないことが明らかになりました。彼が自分の経験を語ろうとすると、一つの話にとどまることがなかなかできません。

シムの話



シムは通常教育を受け、卒業後、地元のIT企業で働いていました。2年前、自動車事故に遭い、外傷性脳損傷を負いました。後遺症として、主に認知的な機能障害が残りました。身体的な問題はありません。事故以来働いていません。

彼はガールフレンドに対するDVで起訴されました。彼は事故後に何回かてんかん発作を経験しましたが、最近、発作は起きていません。

彼は薬を服用していません。精神科医による評価で、彼は、裁判中に仲介者の援助が得られる限り、抗弁する能力があると評価されました。心理学的評価により、彼は失語症（理解と表現に影響を与える後天性言語障害）と診断されました。

彼は自分の弁護士が彼に言っていることを理解することができません。事件当時の出来事についての自分の認識を、適切に説明することもできません。



デビッドの話



デビッドは50歳で、不法侵入で逮捕されました。彼は全体として、受け身人間であり、すぐに他の人、特に権威のある人を喜ばせ、同意しようとしています。

彼をよく知っている人びとは言います。彼は何かのかどで告発されたら、すぐに罪を告白するだろうけど、そうすることで深刻な結果が生じるということを彼は理解していない、と。

彼には正式な診断は受けていません。

エヴァンの話



エヴァンは15歳で、知的障害があります。弁護士なしでの警察による5時間の尋問の後、彼は自分と他の3人がどのようにして少女を攻撃して殺したか語りました。

後で彼は「大声を出されて脅され、恐ろしかった。家に帰してもらうために、言われるままに、話をつくった」と言いました。

彼が捜査官によって手書きで書かれた声明に署名し、家に帰りたいたうと、刑務所行きだと言われたのです。

彼は「再拘留」の意味を理解しておらず、有罪判決を受けたと思って泣きました

ファチマの話



ファチマには知的障害と発達障害があります。彼女は1日2回薬を飲んでおり、家族が管理していました。ファチマが訪れていた酒場での喧嘩があり、警察が駆け付けました。逃げ出した彼女を警察は捕まえました。警察は彼女にミランダ権(*)を読み上げましたが、彼女は意味を理解できませんでした。

彼女は薬が入手できない状態で24時間拘留されました。親戚が拘置所に電話して、ファチマに薬が必要だと伝えましたが、担当者は「大人なんだから自分で看護師に言えるはずだ」と取り合いませんでした。

*米国で用いられているミランダ権は以下のように宣言しています：「あなたには黙秘権があります。あなたの供述は、法廷であなたに不利な証拠として用いられる場合があります。あなたには弁護人の立ち合いを求める権利があります。もし自分で弁護士を雇う経済的余裕がなければ、公選弁護人を付けてもらうことができます。」



ジョルジオの話



ジョルジオはこれまでずっと季節労働者の家族と一緒に移動しながら暮らしてきました。ジョルジオはほとんど学校教育を受けてこなかったの読み書きができません。畑で父親を手伝ったり、動物の世話をしたりしてきました。

彼は去年フェアに行き、ある少女に会いました。

少女は、彼が彼女を性的に暴行したと言います。彼は、彼女が同意したと言います。彼は法廷手続きがどのように機能するかを理解しておらず、弁護士のかつらやガウンに非常におびえています。彼は実際の15歳よりも大人びて見えます。

彼は正式な診断を受けていませんが、問題を解決したり、自分の経験について話したり、複雑な質問を理解したりするのが苦手です。

アンリの話



アンリは自閉症スペクトラム障害と診断されました。彼は、特殊教育学校に通う、14歳です。他の人とアイコンタクトをとらず、会話を始めることもなく、比喩的な言葉やユーモアを理解できません。

友達を作ることがなかなかできず、ルーチンの変更が苦手です。字を読むことはできますが、複雑な文書の暗黙の意味を誤解することがよくあります。

彼は、クラスの別の少年に性的に触れたと訴えられています。

イゾベラの話



イゾベラは、母親が父親を殺したとき、その部屋に居合わせました。彼女には障害の病歴がなく、事件の前は授業助手として働いていました。しかし、その事件以来、彼女は心的外傷後ストレス障害の兆候を示し、パニック発作を起こし、人との社会的かかわりを避けています。

彼女は自分を傷つけることを考えたとき報告しました。薬により、突然日常生活に侵入してくるフラッシュバックを減らすことができましたが、自分の母親に対する起訴証人として法廷に出席することを要請され、彼女は不安レベルは高まっています。

反対尋問が彼女の精神的健康に有害であることが懸念されています。



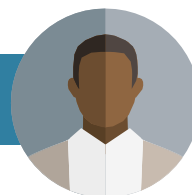
ホセの話



ホセは現在75歳で、認知症の初期の兆候がみられます。彼の行動範囲は限られており、聴力は低いです。妻と継娘と一緒に住んでいたときの、40年以上前の性的犯罪で告発されています。

彼は法廷で硬い椅子に座ったり、長期間座ったりするのが困難であると予想されます。彼は手続きに耳を傾けることはなく、情報の保持もしません。

ハリドの話



ハリドは5年前に運動ニューロン疾患（筋萎縮性側索硬化症）と診断されました。現在車椅子を使用しており、彼の発話はなじみのない傍聴者にはほとんど理解できません。

彼は拡大代替コミュニケーション機器を持っていませんが、アルファベットの表と絵図の補助を使ってコミュニケーションをとることができます。彼はすぐに疲れます。

彼は警察に言いました。ある介護助手がハリドの入浴を手伝う際に、彼を身体的に虐待した、と。ハリドは警察に、何が起こったのか正確に説明する必要があります。

レオの話

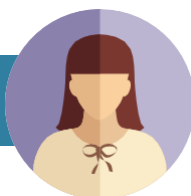


レオは5歳です。彼は自分の先生に言いました。叔父が泊りにくるたびに彼にすることが好きではない、と。詳細は明らかではありません。

レオは正常に発達している子どもであり、年齢に適した言語能力もあります。彼は自分の経験について警察官に話す必要があり、尋問を受けるために法廷に行かなくてはなりません。



マリアの話



マリアは人生のほとんどを介護施設で過ごしてきました。彼女には、重度の身体的障害があり、口頭でのコミュニケーションも非常に限られています。

彼女が入所しているケアホームの他の居住者から、彼女はスタッフから言葉の虐待を受けているとの申し立てが複数件ありました。警察は、マリアがこの件に関して追加する証拠があるかどうか確認したいと思っています。

マリアは警察官と会いたくありません。彼女はおびえていて、状況を理解していません。彼女が証拠を提出できる状態になる以前に、信頼関係を築くための時間が必要です。彼女には時間の経過の概念がないので、すぐにそれを行う必要があります。

ノアの話



ノアには多くの不安があります。彼には、見知らぬ人と話す能力に影響を与える社会恐怖症があり、パニック発作を起こすことがあります。薬を処方されていますが、常に従うわけではありません。

彼には自傷行為の過去があり、新たなトラウマがその傾向を悪化させることが予想されます。彼は、自分が入所している介護施設にいる別の居住者に嫌がらせをしたとして告発されています。

彼は警察からの聴取を受ける必要があります。

オリーブの話



オリーブには長期間にわたって薬物を乱用してきた経歴があります。彼女は何年もの間ホームレスでした。

彼女の最新の医療報告によれば、彼女は時々妄想に陥り、現実の感覚が欠けているとされました。

彼女は脅威を感じると言葉が攻撃的になります。彼女は、路上での殺人の目撃者として法廷に出席するよう依頼されています。



ピンチャスの話



ピンチャスは去年引っ越してきた国の言語に堪能ではありません。彼は建設業で、未熟練の臨時雇いとして働いています。

彼は、職場の同僚に金銭を求めて嫌がらせをしたり、ある時は暴力を脅したりした罪で告発されています。彼は評価を受けるために通訳を必要とします。そして彼には通訳をしてくれる親しい友人や家族がいません。

彼は生まれた国で学校に通っていませんでした。移住先では、彼は知的障害があるのか、それとも単に十分な教育を受けていないだけなのか不明でした。

彼は読み書きができません。

リカードの話



リカードは40代の父親です。人生の大半を通じて、自分は他の人とどこか違うと思って過ごしてきました。最近彼は、知的障害のない自閉スペクトラム症と診断されました。彼はやっと自分がいつも人間関係で苦労してきた理由がわかりました。

彼は最近妻と別れ、子どもの親権を申請しています。彼は自分が裁判のプロセスにどのように対処できるのかについて懸念しています。予測不可能性、彼の人生の変化、そして法廷環境における特定のコミュニケーション要求などが彼を不安にさせます。

彼の弁護士はリカードと最初にあったとき、彼に障害があることを認識していません。リカードは、2回目に会った際に、最近の診断について弁護士に話します。

ソフィアの話



ソフィア（17歳）は弟と妹が3人いる長女です。昨年、地方当局は、両親の育児放棄と性的虐待の懸念から、4人の子ども全員を引き離す措置を取りました。

ソフィアは別の町の大学に行くことを計画しているため、家庭裁判所での訴訟の結果がどうであれ、実家に帰る可能性は低いと思われます。彼女は学校の成績は良いですが、人と接することを非常に恐れています。

裁判所は彼女に対して、両親について証言することと、兄弟が実家に帰ることができるかどうかについて裁判所が判断できるよう協力することを求めています。

彼女は、怖くて法廷で証言できないと言いますが、兄弟の安全を確保したいと思っています。



考察ツール：モジュール5

ここでユーザーの皆さんには、モジュールの内容を振り返っていただきます。また、私たちがコンテンツの改善と更新を継続的に行う手助けをしてもらえれば幸いです。

それでは、あなたの考察を共有するために、

ここをクリック
してください。

あなたには個人的な障がいの経験はありますか？ここにそれについて少し書いてください。

あなたが遭遇した障害者のうち、司法制度を経験したことのある人について書いてください。その人は制度によってどのような不利を被りましたか？その人のための配慮はありましたか？